

スイス連邦工科大学チューリッヒ校 (ETH) 留学報告書

工学系研究科社会基盤学専攻
海岸・沿岸環境研究室修士2年 田口裕介
2015年1月6日

1. 留学期間

2013年9月～2014年8月 (M1夏～M2夏)

2. 留学前の準備

学部生の頃から、同じ大学に6年間もいるのは長すぎる。どこかに留学したいという思いを漠然と持っていました。留学先選びについてですが、全学の交換留学プログラムは出願の時期が早く(留学1年前)、気がついた頃には申し込みが終わってしまっていました。工学系研究科の協定校から留学先を考えた結果、留学生の占める比率が高く、インターナショナルな環境である。修士の授業がほとんど英語で行われるうえ、チューリッヒは街中でもかなり英語が通用する(ドイツ語の学習経験がなかったため不安だった)。授業のレベルが高い。ウィンタースポーツを楽しむには絶好の環境である。などの理由から、ETHへの留学を決めました。ドイツ語は留学が決まってから勉強しましたが、結局はドイツ語をあまり使わなくても生活できた。また、スイスドイツ語という方言(ドイツで話されているドイツ語とはかなり違う)が話されており、勉強していったドイツ語との違いに驚かされることも多かった。ドイツ語ができなくても問題無いが、ドイツ語ができれば現地の学生との交流の幅も広がり、留学生生活をよりエンジョイできると思います。

3. 授業・研究等

東大の授業とは異なり、講義45分の度に15分休憩が入ります。印象的だったのはグループワーク系の宿題の多さで、授業時間外にグループで集まり、最終的にプレゼンテーションするタイプの課題が多かった。日本の大学生と比較すると皆プレゼンテーションが非常に上手で、とても勉強になった。秋学期は授業がクリスマス前に終了し、1月～2月中旬が試験にあてられているが、春学期は6月半ばに終了し、1ヶ月半後の8月に期末試験を行うという独特のスタイルをとっている。勉強する期間がほしいという学生からの要望でこのような日程になったらしい。東大に比べ、学期中の課題をこなすのが大変だが、試験は要領よくこなせば意外と楽だと感じた。また、授業以外にも、各研究室がやっている研究プロジェクトに参加することもできる。ホームページや、授業中に先生から紹介される場合もあり、基本的にどんな学生にも門戸が開かれている。面白そうなものがあれば積極的に連絡を取ってみると良いと思う。

他には、語学の授業がとても充実しており、公用語であるドイツ語・フランス語・イタリア語はもちろんのこと、他言語やビジネス英語等の授業も多く開講されている。日本のように文法重視ではなく、話すことなど実用面に重点が置かれており、授業中

に練習でクラスメートとコミュニケーションをとる機会が多いので友人も増えると思う。さらに、タンデムという言語交換プログラムも活発に行われており、自分が学びたい言語を母国語としている人をランゲージセンターから紹介してもらい、お互いに言語を教え合うこともできる。

4. スイスでの生活

生活水準が高く、空気もきれいで、水道水もおいしく、トラム・バス・電車と公共交通機関も非常に便利です。気候も穏やかで、チューリッヒはそれほど寒くならないため快適に過ごせます。その反面、物価が非常に高く、学生は自炊しないとなかなか暮らすのが難しいと思います。私が留学していた時期は円安気味(1フラン110円台。もっと前は80円台だったのですが)だったということもあり、特に食事に関してはある程度の我慢が必要でした。忙しいときは大学の食堂を利用するのもありだと思います(1食あたり5,6フランです。ただ土日は閉まっています)。また、物価の安いドイツとの国境付近へ買い物に行くのも手です。だいたい半額以下で、特に肉類などは3分の1くらいの価格で入手できます。Gleis7という鉄道パスがあり、夜7時以降は無料で鉄道に乗り放題なので、夜行けば交通費もかかりません。

5. 休日・休暇の過ごし方

休日はほとんどヨーロッパ旅行とスキーに費やしました。スイスはヨーロッパのほぼ中央に位置しており、ドイツ、イタリア、フランス、オーストリアに囲まれ、鉄道で簡単にアクセスできるため、旅行するにはもってこいのロケーションだと思います。前述した通り、スイス国内で夜7時以降無料のパスがあり、国外ではInterrailパスという、居住国以外で鉄道乗り放題になるヨーロッパ在住者用のパスも利用可能です。また、ヨーロッパではLCCが普及していますので、早めに予約しておけば気軽に少し遠くまで飛んでいくこともできます。ヨーロッパ内に加えて、モロッコ、トルコ、イスラエル、ヨルダン等も旅行しました。もちろんスイス国内も自然豊かな素晴らしい観光地だらけで、夏はハイキング、冬はスキーを楽しめます。スイスのゲレンデは世界でもトップクラスのクオリティーで、氷河を眺めながらのスキーは一生忘れられない思い出です。

6. 就職活動について

私は可能であれば修士を2年間で終わらせようと考えていたので、11月に開かれるボストンキャリアフォーラムと、6月にロンドンで開かれるBal-Jobという就活イベントに参加しました。現地で内定を出す企業と、日本で最終選考を含めて数回面接を行う企業があり、私の場合は企業が日本で行われる最終選考に参加するための渡航費を出してくださり、数日間だけ帰国しました。最終的にロンドンで出会った企業で翌年4月から働くことを決めました。しかし、エントリーシートの提出など、留学中に就職活動に時間を割くのがもったいない気もしたので、1年間あるいは半年間修士課程を延長することも悪い選択肢ではなかったと思います。

7. 最後に

留学を通じての多くの人々との出会い、そしてヨーロッパの現状について様々な面から知れたことが何よりの財産だと思っています。工学系の協定校であれば手続きも比較的簡単に済み、チャンスはたくさんあります。積極的に飛び込んでみて下さい。最後に、今回の留学にあたりサポートして頂いた皆様、本当にありがとうございました。